

令和 3 年 5 月 24 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17H02262

研究課題名（和文）二つのスピノザ・ルネッサンスの狭間 十九世紀フランス哲学におけるスピノザの影

研究課題名（英文）The 19th century French philosophy in-between two Spinoza renaissances

研究代表者

上野 修（Ueno, Osamu）

大阪大学・文学研究科・名誉教授

研究者番号：10184946

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 6,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、ドイツ経由の汎神論的スピノザ思想の受容をめぐる躊躇や葛藤を軸に据えることによって、19世紀フランス哲学の展開の俯瞰的なビジョンを獲得した。現代フランス思想のルーツとなるスピリチュアリズム・実証主義・社会主義の形成過程にマイナー哲学としてのスピノザが与えた影響を個々の事例をもとに明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

19世紀フランス哲学という従来あまり知られてこなかった時期に関する本格的な研究として評価を受けた。スピノザ受容を軸に据えてドイツ近代哲学を見直す共同研究が他処で進行中だが、それとの密接な関連と相乗効果が期待される。また、いわゆる現代フランス哲学の前史が明らかになってきたことで、哲学の19世紀という問題展望が開かれる一つの契機となった。

研究成果の概要（英文）：This study gained a bird's-eye view of the development of 19th century French philosophy by focusing on the hesitation and conflict over the reception of Spinoza's Pantheistic ideas via Germany. Based on individual cases, it brought to light the influence of Spinozism as a "minor philosophy" on the development of spiritualism, positivism, and socialism, which are the roots of modern French thought.

研究分野：西洋哲学史

キーワード：西洋哲学 十九世紀フランス哲学 スピノザ

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

背景には先行する二つの科研共同研究「近現代哲学における虚軸としてのスピノザ」基盤研究(B)2010 - 2012 と「フランス・エピステモロジーの伏流としてのスピノザ」基盤研究(B)2013 - 2015 の成果があった。前者は 18 世紀末ドイツに起こった第一のスピノザ再評価に光を当て、フィヒテ、シェリング、ヘーゲルなどのドイツ観念論形成の虚軸としてスピノザ哲学が存在していたことを明るみに出した。後者はラカン、アルチュセール以降の現代フランス哲学の伏流としてエピステモロジーのスピノザ的系譜が存在し、これが 60 年代以降のスピノザの再登場の背景となったことを明らかにした。そこでこの二つのスピノザ・ルネッサンスのはざまとして 19 世紀フランス哲学の問題が浮上してきた。この時期の哲学はまとまった研究は多くない。そこでスピノザ受容を軸にしてこの空白を埋めることが課題であると思われた。

2. 研究の目的

19 世紀フランスは大哲学者が出てこず哲学的にあまり注目されてこなかった。本研究はこの時期を二度にわたるスピノザ・ルネッサンス(18 世紀後半のドイツにおけるルネッサンスと 20 世紀後半のフランスにおけるルネッサンス)の間のミッシングリンクとして位置づけ、この新たな視点から 19 世紀フランス哲学の哲学的な意義を問いなおす。すなわち、第一のスピノザ・ルネッサンスで浮上してきたスピノザの汎神論という問題が大革命後のフランスの文脈の中でどのように姿を変えて継承されたか、そして 1960 年代の第二のスピノザ・ルネッサンスに連なるどのようなフランス的土壌がそこで醸成されつつあったかを解明すること、これが目的である。

3. 研究の方法

- (1) テーマを決めて年度ごとに数回、研究分担者と研究協力者による研究会を開いて発表と集中討議を行う。
- (2) 海外からの研究者を招き、大阪と東京で講演と集中討議を行なう。
- (3) 加えて最終年度には公開ワークショップを開き、課題研究の存意義を広く知らしめる。
- (4) 以上の研究成果を成果報告書としてまとめ、研究計画終了後これをもとに論集を作成し出版する。

4. 研究成果

- (1) 第 1 回研究会(2017.9.23-24 大阪大学): 未踏の領域であるため、まずは具体的にどのような探求課題が存在するか、研究分担者各自の知見を披露し、研究の分担を確認した。発表は次のとおり。

上野: 19 世紀におけるスピノザ / 杉山: スピノザのリハビリテーション: エミール・セセの仕事とその背景 / 杉山: 初期テヌにおけるスピノザのプレゼンス / 村松: 19 世紀フランス文学におけるスピノザ / 米虫: クルノー、X(?), タルドからカンギレム、ドゥルーズへ 19 世紀後半のフランス哲学におけるスピノザ主義の側面 / 近藤: 1890 年代における「スピノザの道徳」という主題について デルボ、ブランシュヴィック、ウォルムス / 村瀬: ルキエとスピノザの(無)関係 ルヌヴィエを挟んで / 舟場: 新カント派のスピノザ論 ヴィンデルバントの場合 / 伊東: 4 つの『ドイツ哲学史』とスピノザ像 / 中村: 判断の自由から観念と行動の必然性へ: ラニョー - アラン - カンギレムの系譜をめぐって

- (2) 第 2 回研究会 招聘講演とワークショップ(2017.11.25-26 成城大学): フランスからスピノザの著作の翻訳等で著名なベルナル・ポートル氏を招聘して講演いただき、19 世紀フランスにおける特異なスピノザ受容のケースについて最新の知見を得た。演題は次のとおり。

ベルナル・ポートル: スピノザ『エチカ』における性・愛・幾何学 / 忘れられたスピノザ主義者、ジュール・プラット

- (3) 第 3 回研究会(2018.3.17-18 鹿児島大学): 分担した課題を持ち寄って中間報告を行い、課題間の連関を共同討議した。発表は次のとおり。

上野: 何が見えてきたか / 杉山: スピノザ受容マッピングのための素材について / 村松: サンドのスピノザ、ユゴアのスピノザ: フランスロマン主義のスピノザ像 / 近藤: デルボス『百科全書』項目「哲学」にみる実証主義に対する合理性の応答 20 世紀初頭における自然科学と形而上学をとりまく文脈状況の探査 / 米虫: 心理学者スピノザ?タルドによるスピノザ受容 / 伊東: パリのハイネ、サンシモニズム、マルクス / 中村: 今後の方針について / 村瀬: スピノザとルキエとの絆としての「実践的矛盾」(?)

- (4) 第 4 回研究会(2018.9.28-29 北海道大学): 分担した課題のさらなる深化と 19 世紀フランス哲学の全体的な文脈展望に向けた討議を行った。発表は次のとおり。

上野: ヴィクトル・プロシャールのスピノザ論 二つの汎神論 / 村松: 汎神論論争の中のスピノザ / 米虫: デュルクームにおけるスピノザ - 社会学と心理学の間の哲学 / 近藤: 1870-80 年

代のイタリア実証主義とその周辺のスピノザ / 伊東：ヘルマン・コーヘンのスピノザ・ハイネ論 / 中村：手を取り合うスピノザとデカルト ジュール・ラニョーによるカント批判哲学の徹底化

(5) 第 5 回研究会 招聘講演とワークショップ(2018.10.12~13 学習院大学)：世界的にも著名なスピノザ研究の泰斗ピエール＝フランソワ・モロー氏をフランスから招聘し、スピノザの受容という観点から 19 世紀フランス哲学全体の形成発展が描ける可能性を示唆された。演題は次のとおり。

ピエール＝フランソワ・モロー：19 世紀フランスにおけるスピノザ主義と汎神論 / 19 世紀フランスにおけるスピノザ受容

(6) 第 6 回研究会(2019.3.5~6 豊橋科学技術大学)：以上のさまざまな洞察と知見を総合しつつ、スピノザ受容を軸にした 19 世紀フランス哲学を俯瞰するマップ制作を開始し、成果をまとめる論集の大まかな構想を立てた。発表は次のとおり。

上野：フランス社会主義におけるスピノザ主義の不在 / 杉山：ライブニッツかスピノザか ベルクソンの生命哲学の帰趨 / 村松：汎神論論争再考 / 近藤：V.デルボスのスピノザ汎神論解釈の行方 1908 年の「スピノザ哲学における実体概念と神概念」にみる / 米虫：テオデュール・リボーのスピノザ(主義) / 伊東：ハイネ、コーヘン、ローゼンツヴァイク ヘルマン・コーヘンのスピノザ・ハイネ論(2) / 中村：必然性・決定論・機械仕掛け スピノザに関するラニョーとの懸隔からアランを読む

(7) 第 7 回研究会(2019.06.21-22 山口大学)：ここまでの研究成果を整理し総合を行った。19 世紀前半はカトリックとのスピノザ受容をめぐる汎神論論争が重要な契機となって近代的な大学制度を担う高等師範学校クーザン派のスピリチュアリズムの形成があったこと、片や理工科学校を拠点とするサン＝シモン派社会主義がヘーゲルの汎神論を進歩思想の契機とし、それゆえに同じ汎神論論争の渦中にあったこと、そしてこれら三勢力が革命後の社会秩序構想をめぐる熾烈な思想闘争の中にあっただことが確認された。また 19 世紀後半は実証主義の心理学や社会学の台頭、そしてそれとの確執の中で哲学史研究に特化していくアカデミズムという文脈において、自然主義とスピリチュアリズムのあいだで分裂するスピノザ像が確認された。発表は次のとおり。

杉山：汎神論から解放された「自然主義者スピノザ」の登場 / 村松：フランス汎神論論争とその帰趨 / 米虫：哲学周辺のスピノザ主義 エスピナスとヴォルムスの場合 / 上野：フランス社会主義思想におけるスピノザの不在 ユマニテの問題 / 伊東：19 世紀初頭の哲学史(とスピノザ) / 近藤：第三共和制期の哲学状況の趨勢とスピノザ研究の動向 / 村瀬：スピノザ、ルヌヴィエ、ルキエをめぐる / 中村：ジュール・ラニョーの反省哲学におけるスピノザの「亡霊」? / 村松：シモーヌ・ヴェイユとスピノザ

(8) 第 8 回研究会ワークショップ「19 世紀フランス哲学におけるスピノザの影その 1 世紀前半」(2019.12.07-08 東京大学)：論集を念頭において世紀前半に関する成果を発信した。提題は次のとおり。

伊東：19 世紀初頭におけるドイツ哲学導入からみたスピノザの「影」 / 村松：フランスの汎神論論争 - クーザンの著作と活動から / 杉山：テーヌのスピノザ主義 / 上野：フランス社会主義におけるスピノザの不在 / 九鬼一人 [特別講演]：真理の宛先 実体・内在・相関

(9) 第 9 回研究会ワークショップ「19 世紀フランス哲学におけるスピノザの影その 2 世紀後半 / フローベール、ヴェイユ」(2020.08.21,25Zoom 会議)：同じく論集を念頭において世紀後半以降に関する成果を発信した。協力者としてフローベール研究の山崎敦氏、ヴェイユ研究の佐藤紀子氏の参加を得、最新の知見を加えることができた。提題は次のとおり。

村瀬：実践的矛盾について / 米虫：19 世紀末フランス哲学周辺のささやかなスピノザの影 / 近藤：19 世紀後半におけるスピノザをめぐるいくつかの文脈の錯綜とその後の展開について / 中村：ジュール・ラニョーのスピノザについて / 佐藤紀子：社会問題を軸にみるシモーヌ・ヴェイユにおけるスピノザ(主義)の影響 / 山崎敦：フローベールとスピノザ

(10) 論集の刊行：上野修・杉山直樹・村松正隆編『スピノザと 19 世紀フランス』(岩波書店、2021.02.25)：研究分担者と研究協力者による諸論考、ならびに招聘したフランス人研究者 2 名の論考を収録。

(11) 上記論集の公開合評会(2021.03.23Zoom 会議) 評者：加藤泰史、杉本隆司、鈴木泉
19 世紀フランス哲学という従来あまり知られてこなかった時期に関する本格的な研究として評価を受けた。スピノザ受容を軸に据えてドイツ近代哲学を見直す共同研究が他処で進行中だが、それとの密接な関連と相乗効果が期待される。また、いわゆる現代フランス哲学の前史が明らかになってきたことで、哲学の 19 世紀という問題展望が開かれる一つの契機となった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 杉山直樹	4. 巻 25
2. 論文標題 2019年秋季大会 シンポジウム報告 テーマ：19世紀フランス哲学の再検討 イントロダクション	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 フランス哲学・思想研究	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉山直樹	4. 巻 25
2. 論文標題 フランス・イデアリスムの生成 ラシュリエとその周辺から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 フランス哲学・思想研究	6. 最初と最後の頁 27-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤和敬	4. 巻 88
2. 論文標題 一八九二年のルネ・ヴォルムス『スピノザの道徳 その原理とそれが現代におよぼした影響の検討』 に至る、実証主義におけるスピノザ受容の歴史的概観	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鹿児島大学法文学部紀要 人文学科論集	6. 最初と最後の頁 15-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村瀬鋼	4. 巻 39
2. 論文標題 ジュール・ルキエにおけるスピノザの影—ルヌヴィエを媒介に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 成城大学文学研究科 ヨーロッパ文化研究	6. 最初と最後の頁 221-258
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤和敬	4. 巻 86
2. 論文標題 1890年代における「スピノザの道德」という主題設定について：デルボス、ブランシュヴィック、ウォルムス	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鹿児島大学法文学部紀要人文学科論集	6. 最初と最後の頁 29-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 近藤和敬	4. 巻 86
2. 論文標題 デルボス『大百科全書』項目「哲学」にみる実証主義に対する合理性の応答：20世紀初頭における自然科学と形而上学をとりまく文脈状況の探査	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鹿児島大学法文学部紀要人文学科論集	6. 最初と最後の頁 39-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 近藤和敬	4. 巻 86
2. 論文標題 1870-80年代のイタリア実証主義とその周辺のスピノザ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鹿児島大学法文学部紀要人文学科論集	6. 最初と最後の頁 49-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 3件／うち国際学会 2件）

1. 発表者名 村松正隆
2. 発表標題 19世紀フランスにおけるスピノザ受容と「哲学史」の書き換え
3. 学会等名 科研費基盤B「フランス・ロマン主義の歴史的展開についての研究 文学、政治、美学」2020年度第6回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 杉山直樹
2. 発表標題 批判主義の向こう岸 ラシュリエとその周辺から
3. 学会等名 日仏哲学会シンポジウム『19世紀フランス哲学の再検討Ⅰ』
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村松正隆
2. 発表標題 幸福論の系譜 - 享受の幸福と活動の幸福
3. 学会等名 北海道生命倫理研究会第11回セミナー
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 上野修、杉山直樹、村松正隆、ピエール＝フランソワ・モロー、伊藤道生、ベルナール・ポートル、山崎敦、村瀬鋼、米虫正巳、中村大介、近藤和敬、佐藤紀子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 354
3. 書名 スピノザと十九世紀フランス	

1. 著者名 Masataka Muramatsu	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Georg Olms Verlag - Europaea Memoria	5. 総ページ数 318
3. 書名 Considerations inactuelles, Bergson et la philosophie francaise du XIXe siecle	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	米虫 正巳 (KOMEMUSHI MASAMI) (10283706)	関西学院大学・文学部・教授 (34504)	
研究分担者	舟場 保之 (FUNABA YASUYUKI) (20379217)	大阪大学・文学研究科・教授 (14401)	
研究分担者	伊東 道生 (ITO MICHIO) (50232476)	東京農工大学・工学(系)研究科(研究院)・教授 (12605)	
研究分担者	杉山 直樹 (SUGIYAMA NAOKI) (50274189)	学習院大学・文学部・教授 (32606)	
研究分担者	村瀬 鋼 (MURASE TSUYOSHI) (60279247)	成城大学・文芸学部・教授 (32630)	
研究分担者	村松 正隆 (MURAMATSU MASATAKA) (70348168)	北海道大学・文学研究科・准教授 (10101)	
研究分担者	中村 大介 (NAKAMURA DAISUKE) (70726611)	豊橋技術科学大学・総合教育院・准教授 (13904)	
研究分担者	近藤 和敬 (KONDO KAZUNORI) (90608572)	鹿児島大学・法文教育学域法文学系・准教授 (17701)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------